

川のこれからを語る集



島田土木事務所から今年完成した瀬戸川河川整備計画の説明が行われました。さらに、しずおか流域ネットワークのファシリテートで前年に続き整備計画に基づき実施計画が進む朝比奈川の未来づくりについて地域住民と行政職員とがワークショップを行ないました。

川の魅力再発見の集い

川や流域を環境教育の場として活動する団体の交流会。



「里の楽校」、「水上の里」、「空耳子ども会」の子供達の交流会が行われ、「里の楽校2002」のドキュメントVTRが発表されました。自然体験活動をよくする子供達の親御さんに日頃の子供達の様子などについて意見交換をしました。



川とごみを考える集い

社会全体の問題でもあるゴミ問題を考える集いでは、興津川保全市民会議の委員をされていて、NPO法人しずおか環境教育研究会

の代表でもある成瀬修一東海大学短期学部教授をコーディネータに迎え、上流の森林組合さんを始め、中流域の土地改良区さんや下流域の焼津漁協さんも参加して、各団体の抱える問題を共有することからはじめました。稲葉地区では瀬戸川協に計画されている2市2町のゴミ焼却場の位置選定に関わる行政の対応について、地域の有機農業を営む農家の方々からの意見発表もあり、川でのキャンプによりマナーの悪さからゴミの処理を地元の人たちが行っている等の切実な問題についての現状認識もしました。今後も上下流の連携により広域に継続的に考えていかなければいけない問題と考えよりネットワークを充実していかなければと感じました。



パネル展示 クイズラリー



染飯、おでん、お稲荷



地場製品の販売と手打ちそば

川のみらい・地域のみらいについて考える情報紙

瀬戸川通信 第9号

発行 瀬戸川フォーラム 平成14年12月10日



瀬戸川中流域 日切地蔵尊



瀬戸川フォーラム2002

地域住民や学生の協力のもとに藤枝市稲葉地区で開催

瀬戸川フォーラムでは11月24日(日)に「稲葉公民館」において「せと川フォーラム2002」(第5回)を開催しました。今回のフォーラムは、「流域の里山と清流を守るために」を副題に、瀬戸川中流域で有機農業を営み、ふるさとの自然環境を守る活動を積極的に行っている



がなまめファミリー倶楽部や流域で行われている「里の楽校」の学生リーダーの協力を得て、河川敷公園が整備され水遊び、バーベキューやスポーツなど河川の利用が多く行われている藤枝市寺島で開催しました。

今回のフォーラムは午前中に体験を主体とする活動を行い、勝草橋から金吹橋周辺の瀬戸川散策、旧東海道の宿場町を支えた元井戸のエコアップや「水上の里」の田んぼピオトープづくりなどが行われ、午後からは川の未来を語る集いや川のゴミ問題、川や流域を環境教育の場として活動する団体の交流会を行いました。

各集いの分かち合い

を全体会として全員参加の元に行われ、各集いで話し合われた内容の発表が行われ、地域の川事情や流域の保全活動について活発な意見交換がされました。

当日はスタッフとしてフォーラム関係者90名、フォーラムの活動に子供達100名 大人60名が参加していただきました。



協賛各社

黒川医院	菅ヶ谷内科医院
青島歯科医院	(株)松浦不動産
岡歯科医院	小柳津久男事務所
(有)桑原モーターズ	佐野設計工房 一級建築事務所
服部歯科医院 音羽町診療所	(株)エクノス ワタナベ
(株)山田組	大鐘測量設計(株)

瀬戸川フォーラム 参加団体

しずおか流域ネットワーク/志太自然ネットワーク
(社)藤枝青年会議所/森林組合おおいがわ/静岡県島田土木事務所
瀬戸川 朝比奈川非出資漁業協同組合/ふるさと建設の会
大井川流域ネットワーク/志太エコクリエイト

瀬戸川フォーラムのHPもご覧ください。http://www.ryuikinet.gr.jp/setogawa/

瀬戸川通信 編集責任者 大井川流域ネットワーク 小田 稔彦
島田市中央町31-10 TEL 0547-36-0706

せと川まるごと体験

せと川まるごと見つけ隊
川の生き物発見隊
生ゴミ処理機製作隊
元井戸エコアップ隊
川遊び知り隊
水上の里・ピオトープ作り隊

せと川ワークショップ

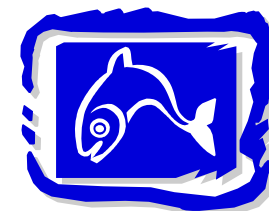
川のこれからを語る集い
川の魅力再発見の集い
元井戸を守る集い
川とゴミを考える集い

パネル展

勝草橋の今昔写真

せと川の生き物展示

せと川の生き物展示



第5回 せと川フォーラム 開催報告

まるごと見つけ隊 勝草橋から金吹橋までをゆっくり散策



里の楽校学生リーダーの案内による瀬戸川周辺水辺の散策。瀬戸川の宝物は何だろう？自然体験を通じて地域の歴史文化を体験しました。昔話（劇）から旧東海道の様子や瀬戸川の様子を体感しました。瀬戸川沿いには他の川には見られないエノキやクスノキなどの巨木もあります。



元井戸エコアップ隊 素敵な小川と湧水池を再発見し、きれいにする活動



元井戸は県の湧水100選にも選ばれています。元井戸を源とする小川は昔、いくつもの水車を回し旧東海道の宿場町を潤し、生活用水として活躍していましたが現在では多くの部分が暗渠化されています。

昔の人たちが大切にしていた美しい水辺のエコアップに多くの子供達が参加してくれました。

川の生き物発見隊



志太自然ネットワークの大塚さんから水生生物や魚の捕まえ方の話を聞き、子供達はすぐに少し冷たいせと川の中に飛び込んでいき夢中で魚を追いかけていました。

川遊び知り隊



子供達に学生リーダーが石磨きや水切り、ネイチャーゲーム等の川遊びを伝授



瀬戸川フォーラムの目的

1. 流域の自然の保全と文化の振興を図る。
2. 流域を中心に活動する市民の交流をすすめ、流域の望ましい姿を考える。
3. 子供たちの健全な成長にとって重要なふるさとの自然や文化に触れる環境や機会を設ける。

生ごみ処理機製作隊



いなばを守る女性ネットワークの皆さんによるバクテリアを使った生ごみ処理機の製作（地球環境に優しくゴミを減らしましょう）



水上の里・ビオトープ作り隊



午前中に「水上の里」でメダカのすむ田んぼビオトープづくりを行いました。会場では「水上の里」で子供達と一緒に作ったお米を使ってお餅をついてくれました。お餅は黄粉や黒ごま、あんころと大変おいしくできあがり、子供達にも大好評でした。当日は水上の町内会の人たちも協力いただきました。



夏の「水上の里」田んぼビオトープ



大好評「エコマネーどんぐり」 (コミュニティー通貨)

前年から大好評であった「エコマネーどんぐり」を交流づくりのキーとして考え、当日行われた「クローバークリーン作戦」（瀬戸川に近い4つの学校参加による瀬戸川ゴミ拾い活動）に参加してくれた子供達に感謝の気持ちを伝えるため「エコマネーどんぐり」をプレゼントしました。ゴミ拾いに参加してくれた子供達がフォーラム会場で染飯のおむすびと交換したり、エコ展示のクイズラリーにチャレンジすると「どんぐり」をもらえたりと活発な「エコマネー」交流が行われました。「どんぐり」は想定していた以上に大好評で積極的な交流を生み出しました。「エコマネー」効果は地域の食材で作られたおそばやお餅、農産物があったという間に消費されたことや参加してくれた地域の住民の方の満足感にも裏付けされていました。

農家の人たちにも品物がよく売れ、言葉かけをしてくれたと喜ばれました。「どんぐり」は子どもたちにも大人気で使いたくないともって帰る子供までありました。

2回の実践を通じて「エコマネー」に交流や活性化に通じるエネルギーを感じています。今後、積極的に瀬戸川フォーラムの場以外でもネットワークを広げる意味でも使っていきたいと考えています。

※エコマネーとは、お金で表せない「善意」の価値を交換する「あたたかいお金」です。エコマネーとは、一言でいうと、環境、福祉、コミュニティ、教育、文化など、今の貨幣で表しにくい価値を、コミュニティのメンバー相互の交換により多様な形で伝える手段です。こうした価値をエコマネーで交換することにより人と人との交流を促進し、結びつきを強めることをねらっています。エコマネーは、今までにない21世紀の「新しいお金」です。エコマネーは、使う人の感情を媒介します。エコマネーは、従来の市場経済の尺度では計れない価値を、その多様性を評価したうえで、流通させるものです。エコマネーの取引においては、サービス提供者の「思いやり」やサービス受領者の「感謝の気持ち」を反映できるように個別の取引ごとに相対で価格を決めます。その意味でエコマネーは「あたたかいお金」と言えます。

